

科目名	看護科学演習Ⅰ (Advanced Seminar in Nursing Science I)
授業形態	演習
標準履修年次	博士後期課程1年次
実施学期・曜時限等	秋ABC学期 集中方式 5回 開催 (共同利用棟B103教室) 10月2日(水)2限-5限 10月30日(水)2限-5限 11月27日(水)2限-5限 12月11日(水)2限-5限 1月22日(水)2限-5限
単位数	2単位
担当教員名	竹熊カツマタ麻子 (Asako Takekuma Katsumata) 安梅勅江 (Tokie Anme) 岡山久代 (Hisayo Okayama) 杉本敬子 (Keiko Sugimoto) 福澤利江子 (Rieko Fukuzawa) トゴバタラ ガンチメゲ (Togoobaatar Ganchimeg) 菅谷智一 (Tomokazu Sugaya)
ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA)	なし
オフィスアワー等	オフィスアワーは特に定めませんが、事前に担当教員にメールで連絡をしてから訪問すること
授業の到達目標 (学習成果)	(一般目標) 研究課題について、国内外の論文や研究理論の文献検索を行い、系統的・論理的に、研究テーマ、研究背景、研究目的、研究方法等を組み立てた研究計画書を作成して的確に発表することができる。研究計画書審査の合格をめざすこととする。 (行動目標) ①科学的視点から文献検索を実施し、文献の整理・統合を行い、研究課題についての現時点での学問的理解と未だ明らかになっていない課題を説明することができる。 ②研究課題を設定し、研究の目的、研究で明らかにしたい問、または仮説の設定を行うことができる。研究の意義を明確に示すことができる。 ③研究の概念的な枠組みを組み立て、研究の問いを明らかにできる研究方法とその妥当性について検討を行い、説明することができる。 ④研究の問いを明らかにできる研究方法を設定する。データの収集方法と分析の方法に焦点をあて、博士論文として実施可能な研究のプロトコルを検討する。倫理的な配慮等も含め研究計画書を作成することができる。 ⑤研究計画書を基に研究計画をプレゼンテーションを通じて明確に説明することができる。
他の授業科目との関連	研究倫理学演習 (Advanced Seminar in Research Ethics) 看護科学演習Ⅱ (Advanced Seminar in Nursing Science II)
履修条件	なし
授業概要	看護科学発展のためのリーダーシップ能力や自立して研究活動や論文作成ができる能力を養うために、各自が設定した研究課題について国内外の論文を検討し、系統的・論理的に研究目的と研究方法を立案・発表し、建設的に討議をすることで論文作成の技術を探求させる。
キーワード	系統的文献検討、研究課題設定、研究概念枠組み、研究計画立案
授業計画	10月2日(水)2限-5限 (担当教員:カツマタ) (前半)研究計画書とはなにか? (後半)各学生の研究の構想と進捗の発表を行う。行動目標①参照 10月30日(水)2限-5限 (担当教員:岡山) 研究課題に関係する文献の検討から明らかになった研究の問と考えられる研究方法についての検討と発表を行う。行動目標①・②・③参照 11月27日(水)2限-5限 (担当教員:菅谷・杉本) 研究課題と目的を設定し、研究の概念枠組みの検討と発表を行う。理論、研究方法等についても検討を行う。測定法とその信頼性と妥当性の確保等についても検討し発表する。行動目標②・③・④参照 12月11日(水)2限-5限 (担当教員:安梅) 研究の目的、研究の目的から、明らかにしたい研究の問いを挙げる。データの収集方法と分析の方法に焦点をあて、博士論文として実施可能な研究のプロトコルを検討する。倫理的な配慮等も含め研究計画を立て発表、クリティークを行う。行動目標③・④参照 1月22日(水)2限-5限 (担当教員:福澤・トゴバタラ) 秋学期を通じて書き進めてきた研究計画を各自発表、クリティークを行う。研究計画書提出に向けて課題の整理をする。行動目標④・⑤参照
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	系統的な方法で文献検索を行う。常に最新の情報にアクセスできるように試みる。理論、概念、モデル、測定ツール等を有効に活用できるように学生間で討議を重ねるなど習熟方法を検討すること。

成績評価方法	<p>(単位取得要件) 20コマ以上の出席を単位取得の要件とし、最終評価が60点以上をもって単位を認定する。(発表・討議70%・研究計画書ドラフト30%)<b>授業・発表・討議 (70%)</b></p> <p>1. 授業にすべて参加し、担当部分の発表を行うことができればC評価を得ることができる。</p> <p>2. 学期を通じて系統的、論理的な方法で担当部分の発表ができれば、B評価を得ることができる。</p> <p>3. 発表内容について他者と建設的に討議をすることができ、討議の内容を自身の研究計画に効果的に反映できればA評価を得ることができる。</p> <p>4. 発表内容について他者と建設的に討議をすることができ、討議の内容を自身の研究計画に反映しつつ研究計画を立てることができたらA+評価を得ることができる。</p> <p>担当教員相互により学生の評価を行う。評価については、必要条件として、3月末時点の研究計画書審査への提出を目指す。</p> <p><b>レポート課題: 研究計画書ドラフト(30%) 提出期限: 2020年2月16日</b></p> <p><b>評価項目</b></p> <p><b>(1) 研究の課題と問題の設定</b>  A~A+: 背景がわかりやすく述べられ、研究の課題と問題設定が文献検討に基づいて明確にされている  B: 背景が述べられ、研究の課題と問題設定が適切であり、既存研究のレビューがなされている  C: 背景と研究の課題と問題設定が説明されている  D: 背景と研究の課題と問題設定のいずれかが説明されていない</p> <p><b>(2) 論旨の展開</b>  A~A+: 論旨の組立て、展開が明確であり創意工夫がみられる  B: 論旨の展開が明確である  C: 論旨は理解できるレベルにある  D: 論旨が不明確である</p> <p><b>(3) 研究方法論</b>  A~A+: 研究の問いを明らかにできる研究方法とその妥当性について検討を行い、明確に説明している。データの収集方法(ツールなども含めた)と分析の方法の信頼性・妥当性の検討と説明がなされている。、プロトコルでの倫理的な配慮等も含めて綿密に研究計画が立案されている。研究における概念枠組みの提示と説明が明確である。  B: 研究の問いを明らかにできる研究方法とその妥当性について検討を行い、説明している。データの収集方法(ツールなども含めた)と分析の方法の信頼性・妥当性についての言及がある。プロトコルでの倫理的な配慮等も含め研究計画が立案されている  C: 研究の問いを明らかにできる研究方法について検討を行い、説明している。データの収集方法(ツールなども含めた)と分析の方法の言及がある。プロトコルでの倫理的な配慮等も含め研究計画が立案されている  D: 研究方法の一貫性・根拠等が明らかでなく唐突である</p> <p><b>評価項目 (1)、(2)、(3)を各10点とし評価を行い総合評価を行う。</b></p>
教材・参考文献・配布資料等	必要に応じ適宜紹介する
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	<p>本演習では、博士後期課程での研究を遂行するにあたり、研究の構想から研究計画の立案へと、研究計画書作成に関連することを段階を踏みながら学習していく。建設的なクリティークや質問、応答、討議、リフレクション等を通じて、研究計画立案に取り組む。クリティークは批判ではなく、批評であり、研究をよりよくするためにある。そのためにも、意見交換は活発に、フィードバックは建設的なものとなるように心がけること。授業当日の進行や教室の準備、発表の順番などは学生間で話し合い、担当を決め、自主的に運営をすること。自分の発表にコメントを受けたい担当教員以外の指導者や教員などがある場合は、各学生がコンタクトをとって、オブザーバー参加していただくように依頼してもかまわない。</p>